

評論（2013 年本試験）

問2

傍線Aは、どういうことか？とあるので傍線とイコールの内容をチェックせよ！ということ。「まるで変つて了つた」とあるので、本文から変わってしまった内容を捉えるべき。

ここで本文をチェックしてみると「太刀を打刀(実戦用の刀)に変えた」とあり、続きの文に「実用本位の兇器に変じた」とあるので「**実戦、実用**」が**解答のためのキーワード**だと判断して選択肢をチェック。

①のみ「**実戦のための有用性**」と書いてあるので正解

③がヒツカケ。「乱世を生き抜くために必要な武器」漠然としているちなみに①の後半の「自分を見失わず」が本文の次の段落で「平常心を捜さなければ生きていけぬ」と対応していることを確認して最終決定。

はじめから必要なポイントを全て見つけなくても、1つ見つかつたら選択肢をサーチしてみる、という姿勢が時間効率を重視するセンター試験では大切な観点となる。また(注)にも「打刀||実戦用の刀」と書いてあることも注目。

問3

傍線B『』に筆者のどのような考えがあるか？問いかけ方が、面白い。こう聞いてくるからには**本文で筆者観点の強い表現が書かれているはず**。本文をチェックしてみると、傍線部直後「形而上学でもなかったであろう」「仏教など考え難い」「空漠たる問題だろう」と続いたあと「**だが**」があるのでここが重要！だと考えて読む。「だが、**い**居るのである」と強い断定で書かれているので、これが正解の根拠と判断。

「**私達は、彼らの感受性の中に居る**」という内容を捉え、選択肢をチェックしてみることに。

⑤「**その頃の人々の心を実感することが必要だ**」とあり、他の選択肢では「感受性」について全く触れられていませんので、これを正解。段落の最後、選択肢の最後、には力点があるので、判断として間違つてないことを確認して、次に。

問4

傍線Cは「どういうことを例えているか？」とあるので、比喻される前のことを尋ねている。ベクトルの一致を探りたいところ。「**文様透は芽を出した**」とあるので「**芽を出す**」というベクトルを選択肢からチェック。

①↓あり続けた↓ダメ

②↓出現した↓OK

③↓始源となつた↓始まりだけを指すのでダメ

問5

④↓より力強く表現した文様が彫られるようになっていった↓芽を出す、という初めてのニュアンスがないので、ダメ

⑤彫り抜く↓芽を出すベクトルではないのでダメ

正解を②。比喻つて、難しく考ええると拡大解釈をしまいがちなので、ベクトルを重視することは大切。

傍線Dは「なぜか？」と理由が問われているので**直接の理由、すなわち、直前を捉える必要がある**。間接理由は時間効率の妨げになり、問題そのものを余計にややこしくしてしまうので、いったん捉えないことにする。本文でDの直前をチェックしてみると：

「鳥が1羽下りてきて、頭上を舞つた。両翼は強く張られ、風を捕え、黒い2本の脚は、身体に吸われたように、整然と折れている。嘴は延びて硬い空気の層を割る。」1羽の鳥の飛び方の力強さみたいなものを書いてある。選択肢をチェックしてみると：

飛び方に着眼点を置いた選択肢は⑤↓常に緊張し続けるその姿態が力感ある美を体现しているのみですので、これを正解とする。

問6

構成問題なので特に本文を読み取る必要はない。

(i) 一般的な論文の構成を選ぶようにする。

③↓一般論を打ち消し、自説の展開的な内容となつていて、論文の基本姿勢が書いてあるのでこれを正解。

①面白くも、で、問題点は明確にならない

②議論しても仕方ないとはぐらかす？という投げやりなものは論文ではない。

④消極的↓不安？よくわからない。

(ii) 本文の全体構成なので、**パラグラフ(意味固まり)のトップ及びその一文で決めています**。本文をチェックしてみると：

第一パート↓罈というものを、

第二パート↓信長作と言われる或る罈

第三パート↓鉄罈第四パート↓先日、伊那にいる知人から抽象定義、具体、具体なので、選択肢から①を正解とする。